

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年8月20日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇早生水稲(夢つくし、コシヒカリ)◇

4月中下旬植の「夢つくし」「コシヒカリ」の収穫は、8月16日頃から開始しました。7月の低温、日照不足の影響で、収穫は平年並み～3日程度遅れているが、8月末までに終了する見込みです。穂数は平年並み～やや少なく、7月の日照不足の影響で登熟がやや劣り、収量は平年並み～やや少なくなる見込みです。

高温が続いているため、刈り遅れにならないよう適期に収穫を行いましょう。また、収穫後は直ちに、適切な乾燥を行いましょう

### ◇普通期水稲◇(夢つくし、元気つくし、ヒルカリなど)

出穂期は、6月10日植「夢つくし」が8月12日、6月中旬植「元気つくし」が8月17～20日で、平年並み～2日程度遅いです。

葉いもちの発生は平年より少ないが、セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガは平年より多く、特にトビイロウンカは、過去10年間で最も発生が多く、8月7日付けで警報が発令されています。高温の影響で、紋枯病、カメムシも増加の恐れがあります。「夢つくし」の収穫は、平年並みの9月中旬が最盛期になる見込みです。

出穂・開花期は水を最も必要とするため、十分かん水を行い、その後は間断かん水を行いましょう。また、収量、品質向上のため、早期落水はしないようにしましょう。台風通過時は、深水管理としましょう。トビイロウンカ、コブノメイガの発生に留意し、適期に対策を行いましょう。

### ◇大豆◇

播種は、播種後の大雨によるまき直しと梅雨明けが遅かったことから平年に比べかなり遅く、8月10日ごろ終了しました。6月下旬から7月上旬に播種したほ場は、概ね順調に生育しています。梅雨明け後の7月下旬以降に播種したほ場は、適度な降雨があり、出芽も順調です。6月下旬播種の開花期は、8月14日頃で平年並みです。雑草の発生は少ないですが、一部、帰化アサガオ類などの雑草が発生しました。病虫害は、高温によりハスモンヨトウ、カメムシが増加するおそれがあります。8月上旬播種の開花期は平年並みの9月上旬の予想です。

6葉期頃までに株元まで培土を行いましょう。生育が悪いほ場は、最下着莢高が低くなることから刈取作業に支障がないよう培土は1回に留めましょう。開花始期～子実肥大期は乾燥に最も弱い時期であり、本暗渠の栓を閉めて乾燥防止に努めましょう。雑草・病虫害は発生に応じ、対策を徹底しましょう。

### ◇アスパラガス◇

夏芽の出荷は、平年より1か月早い6月中旬をピークに、10月下旬まで出荷が続く見込みです。高温のため草勢が低下しており、細茎傾向で曲がりや穂先の開きなどの障害茎が発生しています。病虫害については、草勢低下に伴い斑点性病害が発生しています。また、チョウ目害虫の発生が多いが、ハダニ類、アザミウマ類の発生は平年並です。

遮光資材の利用やハウスの換気により昇温抑制対策を徹底しましょう。また、土壌が乾燥しないよう適度なかん水を行い、草勢維持に努めましょう。病虫害対策を徹底しましょう。

### ◇イチゴ苗◇

梅雨期の長雨、日照不足の影響により徒長気味で生育が遅延しています。また、梅雨明け後の高温等により根傷みも発生しています。現在、生育は回復してきていますが、全体としては平年に比べやや充実不足の苗となっています。8月中旬から、早期作型では低温

処理が始まっており、定植開始は9月10日以降となる見込みです。ほ場の定植準備は概ね順調にすすんでいます。病害虫は、炭疽病、輪斑病の発生がやや多く、ハダニ類、アブラムシ類の発生は平年並です。

早期作型では、入庫前の寒冷紗の被覆など高温対策を徹底するとともに、生育に応じて作型を見直しましょう。病害虫対策を徹底するとともに、炭疽病の発生が見られる場合は、発病株の除去を行いましょ。

#### ◇温州ミカン◇

着果量は、極早生・早生が平年並み、普通が平年よりやや多いです。梅雨期の長雨、日照不足の影響で、8月上旬時点で早生種の果実糖度は前年・平年より1%程度低く、酸度は前年・平年並み～0.4%高いです。早生種の果実肥大は前年・平年より大きく推移します。今後、極早生・早生の糖度不足が懸念されるため、土壌の乾燥処理に努めるとともに、病害虫の発生軽減に努めましょ。

仕上げ摘果は、摘果基準、肥大推移を参考に、着果量の多い園から行いましょ。また、シートマルチ栽培は、肥大や糖度・酸度の推移をみながらシート開閉、かん水などを実施しましょ。黒点病、カメムシ、ハダニ類の対策を徹底しましょ。

#### ◇ナシ◇

露地「幸水」の出荷期間は、開始が7月26日前後、終了が8月10日前後と前年並みです。春先の低温、梅雨期の長雨・日照不足の影響で、果実肥大が悪く、出荷果実が小玉であったため、昨年より大きく減収しました。果実糖度は、収穫直前の天候回復により収穫時は平年並となりました。

黒星病、ヤガ類、カメムシ等被害果、鳥害の発生が散見されました。

露地「豊水」の出荷は、前年並みの8月盆前から開始し現在出荷中です。春先から枝による着果のバラつきがみられたましたが、肥大は良好です。

収穫は、病害虫被害果、日焼け果、水浸果に留意し、果実品質等の状況をみながら、適期に行いましょ。収穫後の果実への直射日光を避け、品温上昇を防ぎましょ。今後、カメムシ、ヤガの発生期となるため、早めの対策を行いましょ。

#### ◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型（6～9月）の出荷が続いています。出荷量は、夏季出荷作型（6～9月）面積の減少により、大きく減少しています。秋出荷作型（10～11月出荷）の定植は8月上～中旬で概ね終了です。定植後の生育は、高温の影響で抽台がやや早いが順調です。

秋出荷作型では定植後、抽台開始まで十分なかん水を行いましょ。定植後は、晴天時でも過度な遮光は避け、1週間程度で資材を除去しましょ。また、夜蛾類の対策を徹底しましょ。

#### ◇畜産◇

和牛去勢の枝肉単価は4か月ぶりに2千円/kg台に戻したものの、前年比85%、過去5年平均比で83%と依然として厳しい状況です。省令価格も前月の1,190円/kgから戻したものの、前年比89%、過去5年平均比では87%と、前年より低く推移しました。

高温が続いているため暑熱対策を徹底するとともにビタミン・ミネラルを通常時期より増強しましょ。飼料イネについては、トビイロウンカの発生に留意し、対策を徹底しましょ。